

新富町の新たな力に!

第5回

地域おこし協力隊通信

あかねのつぶやき

クリスマススイブは一人寂しくニシタチで呑みました。焼酎の旨さが体に染み込みました。38年経っても、やっぱり日本のクリスマスは私に優しくない。2020年こそは……



先日、町内のイベントで芸人のなかやまきんにくんのモノマネを披露し、ちょっとした噂になっていたりとか。彼の名前は中山雄太さん。昨夏から新富町地域おこし協力隊に加わりました。

映像クリエイターとして、町の魅力を写真や映像を通じて世界に広げたいと意気込み、数多ある自治体の中から自分らしく活動できる新富町を選んで移り住みました。ネットを介し、瞬時に世界とやり取りができる時代。言語の壁がない写真や映像は、情報発信という観点で大きな武器となります。



中山雄太 (なかやま・ゆうた)
1993年、熊本県生まれ。学生時代にバックパッカーで世界24カ国を旅する。その土地土地で出会う風景や人を写真や映像におさめ、自己流で編集するうちに映像制作に興味を抱く。現在は鹿児島大学を休学し、8月より新富町地域おこし協力隊に。映像を通じて地域貢献することを目標に掲げ、日々町内を撮影中。



◀ 国境付近の危険エリアとされているエチオピアのダロール火山。護衛をつけての観光は貴重な体験でした。しかも、超硫黄臭い!
▶ 旅の基本スタイル「野宿」。ベンチに寝袋を敷けば寝床の完成だそうです。肉体だけでなく旅の仕方もワイルドな中山さん。

の「町制施行60周年記念式典」では、彼が編集した作品を町紹介の映像として流してもらい、多くの人の目に触れる経験を得ました。一人前の映像クリエイターになる日も、そう遠くないと思います。

そもそも中山さんが映像の仕事に興味を抱いたのは「旅」でした。バックパッカーで世界中を放浪しながら収めた写真や映像を、自己流に編集するうちにのめり込んでいったそうです。目に映る美しい風景や全身で体感する自然、心を温める人とのふれあいを、「観る」という行為を通じて人々に広め共感を生み出すことに夢中になっています。

しかし、映像クリエイターと名乗るものの、残念ながら輝かしいキャリアがあるわけではありません。

ん。それもそのはず、彼は現役の大学生。鹿児島大学の学生という立場を休む傍ら、地域に貢献しながら、卒業後に映像に関わる仕事ができるようにと、敢えてこの時期に協力隊という立場を選択しました。

現在は、町内のいたるところに出没しては撮影しています。夏から撮りためた集大成として、先日

